



**ThreeBond**



**2021**

# JAPANESE SUPER FORMULA CHAMPIONSHIP SERIES

ROUND.7

## RACE REPORT



SUZUKA CIRCUIT

**HONDA**

**YOKOHAMA**

**ROKiT**

**BANDERO**  
*Premium Tequila*

@MAISYKAY

**KS Material**

**NGK**  
SPARK PLUGS

**QMI**  
beyond the invisible



**3M**

**KAJIMA**

**Home**  
Exceed expectations



**MOTUL**

**Swift**

**ODYSSEY**  
OUTDOOR

**KRS**  
KTEL RACE SERVICE

**WPC**  
METAL SURFACE TREATMENT

**SHIBA LINING JAPAN**  
advanced technology products

**TONE**



**リボバンド**



**PATRICK**



# 2021 最後の戦い

2021 年度全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第 7 戦、JAF 鈴鹿グランプリが、10 月 30 日（土）～31 日（日）にかけて三重県の鈴鹿サーキットで開催された。

前回の第 6 戦で約半年ぶり、4 レースぶりでスーパーフォーミュラに復帰したタチアナ・カルデロン選手（以下、カルデロン選手）はその後日本国内に留まり、チームとミーティングをしながら、自身が憧れのグランプリコースと語る鈴鹿サーキットで開催されるシリーズ最終戦に備えた。

## 公式予選

レースウィークの週末は朝から晴天となった。シリーズ最終戦に向け次戦に行われたミーティングで、カルデロン選手は敢えてダウンフォースを減らす方向でセッティングを提案し、チームもその意向を活かしてマシンを仕上げることにした。

土曜日、午前中に行われたフリー走行で、カルデロン選手は参加マシン中、最大周回数となる 29 周を走り込んでセッティングを確かめたが、タイムはトップから 1 秒 956 遅れの 1 分 39 秒 657 に留まった。

午後、晴れ渡った秋空の下で公式予選が行われた。Q1 セッション B 組に出走したカルデロンは、コース上での混雑を避け、遅れてコースインすると 2 周に渡って慎重にタイヤをウォームアップしてタイムアタックに入った。

結果は 1 分 39 秒 627 で、Q2 セッション進出には 1 秒 306 届かず、スターティンググリッドは出走 19 台中 19 番手となった。

## 決勝レース

決勝レースを迎えた鈴鹿サーキットは、前日とは一転して曇天となり、朝のフリー走行前には小雨が降ってコースはウェットコンディションとなった。カルデロン選手はレインタイヤを装着、決勝レースを想定したフルタンク状態でコースイン、10 周を走って 1 分 59 秒 344 を記録した。

天候は徐々に回復し、午後 1 時 15 分からのウォームアップ走行ではコースがほぼ乾いたが、決勝レーススタートに向けたフォーメーションラップが始まる直前に再び小雨が降り始めるという難しいコンディションとなった。しかし、それ以上の天候悪化の気配はなく、チームは迷わずスリックタイヤでレースに送り出した。

レースのスタートが切られ、カルデロン選手は最後尾からレースを始めた。規則では先頭車両が 10 周を経過した段階で、タイヤ交換義務を消化するためのピットインが可能になるが、チームはピットロードでの混雑を避けて敢えて 1 周ピットインを遅らせて、11 周目にピットインするよう指示を出し、タイヤ交換を行った。

コースに復帰したカルデロン選手は前走車を追い力走を続けたが、19 周目のデグナーカーブで姿勢を崩し 5 秒弱遅れて前走者から引き離されることとなった。その後は 1 分 43 秒から 44 秒のラップタイムで安定した周回を重ねたが、順位を入れ替えるには至らず、30 周を完走してチェッカーフラッグを受けた。

## 予選結果

順位	ゼッケン/氏名 タイム
1	#51 松下 信治 1' 36.717
2	#64 大湯 都史樹 1' 36.901
3	#5 福住 仁領 1' 36.933
19	#12 タチアナ・カルデロン 1' 39.627 (Q1 敗退)



## ドライバー（タチアナ・カルデロン）コメント

今シーズンのスーパーフォーミュラで最後のレースは、私にとってはちょっと残念な結果に終わりました。実は、前回のレースのために日本に戻ってきてから、あまり良い調子ではありませんでした。しかも、今回の鈴鹿は非常に難しいグランプリコースで、6ヶ月に渡ってスーパーフォーミュラのドライブから離れていた私には、正直なところ難しい状況になってしまいました。でも、長いレース生活のうちにはこういうこともあるものだと思います。来年と言わず、来週も、次の週も、さらにその次の週もチャンスはあります。そこで少しでも良い結果に結びつけられるよう努力を続けます。スーパーフォーミュラは本当に素晴らしいレースでした。チームの皆さん、応援してくれたファンの皆さんにありがとうございます。



## 監督（道上龍）コメント

今シーズン、1年間応援していただいた皆さんに心から御礼申し上げます。今年もコロナの影響でレギュラードライバーであるタチアナ選手が途中欠場せざるをえませんでした。塚越広大選手がリザーブで走ってくれて、なんとかシリーズ全7戦走りきることができました。シーズン後半、クラッシュが続いてしまったので、今回の最終戦はタチアナ選手に良い形でフィニッシュしてもらおうということでチーム一丸となって戦いました。結果こそ最後尾スタートの最後尾ゴールで振るわなかったのですが、体力的にも辛かったはずの30周をしっかりと走り切り、マシンも無事に完走できたので良い締めくくりになったと思います。我々は新興チームですが、当然ながら目指すのは表彰台の一番上です。来シーズンのことはまだ何も決まっていますが、いつかは表彰台に上がるため、年末のテストに向けて準備を進めていきます。



## エンジニア（伊与木仁）コメント

最後尾からのスタートでしたから、ダウンフォースを削り気味で行こうかとも考えましたが、タイヤメーカーの方針通り内圧を高めるとリヤタイヤに負担がかかって厳しそうなので、結局グリッドでダウンフォースを戻しました。レースの前半、しっかりと前についていきましたから結果は残りませんでした。良いレースでした。ただ後半、少し体力切れだったのか、タイムロスがありました。内圧が高めなのでオーバーステア傾向が強まって体力が消耗したはず。鈴鹿は厳しいコースですから仕方がないかなとも思っています。今年で我々にとってスーパーフォーミュラ2年目が終わりました。今年新しいダンパーを入れましたし、12月のテストでも、また新たなトライをしてみようと思っています。次のステップへ行かないと上へは行けませんから。




## レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	5	福住仁嶺	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	51' 37.552
2	20	平川亮	carenex TEAM IMPUL	51' 38.868
3	16	野尻智紀	TEAM MUGEN	51' 46.261
4	19	関口雄飛	carenex TEAM IMPUL	51' 46.261
5	15	大津弘樹	Red Bull MUGEN Team Goh	52' 04.051
6	3	山下健太	KONDO RACING	52' 10.542
7	4	Sacha Fenestraz	KONDO RACING	52' 14.882
8	36	中嶋一貴	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	52' 17.768
9	1	山本尚貴	TCS NAKAJIMA RACING	52' 20.480
10	6	牧野任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	52' 23.496
11	64	大湯 都史樹	TCS NAKAJIMA RACING	52' 24.352
12	51	松下信治	B-Max Racing Team	52' 25.223
13	39	阪口晴南	P.MU/CERUMO・INGING	52' 29.051
14	37	宮田莉朋	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	52' 32.238
15	18	国本雄資	KCMG	52' 37.355
16	38	坪井翔	P.MU/CERUMO・INGING	52' 41.523
17	14	大嶋和也	NTT Communications ROOKIE	52' 42.249
18	7	小高一斗	KCMG	52' 43.754
19	12	Tatiana Calderon	ThreeBond DragoCORSE	52' 56.472



## Drivers Ranking

順位	ドライバー	合計	有効ポイント	1	2	3	4	5	6	7
				富士	鈴鹿	AP	SUGO	もてぎ	もてぎ	鈴鹿
1	野尻智紀	94	86	3+20	2+20	3	5	3+20	1+6	11
2	福住仁嶺	55	55	11	3(QF)		20			1+20
3	関口雄飛	55.5	55		8	0.3	3+11	2+15	8	8
4	平川亮	35.5	35.5	11	15	0	0			
5	大湯 都史樹	43	41	2+15	1+1	2	15	5		2(QF)
6	大津弘樹	39.5	38.5		6	2.5	1	1	3+20	6
7	阪口晴南	35.5	35.5	2		1+7.5	1+3	6	15	
8	松下信治	33.5	33.5	-		5.5	8	1+11	5	3(QF)
9	牧野任祐	24	24	-	-		2+6	4	11	1
10	宮田莉朋	24	22	4	5	2+4	4	3	2	
∴										
	Tatiana Calderon	0	0	0	0	-	-	-	0	0
	塚越広大	0	0	-	-	0	0	0	-	-

\*表中ポイント数字の左側：予選ポイント 右側：決勝ポイント

## Team Ranking

順位	チーム	合計	有効ポイント	1	2	3	4	5	6	7
				富士	鈴鹿	AP	SUGO	もてぎ	もてぎ	鈴鹿
1	carenex TEAM IMPUL	96.5	88	8	23	0.5	11	23	8	23
2	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	90	86	17	11	-	26	4	11	21
3	TEAM MUGEN	85	77	20	20	3	5	20	6	11
4	TCS NAKAJIMA RACING	49	47	20	4	3	15	5	-	2
5	P.MU/CERUMO・INGING	39.5	37.5	2	4	7.5	3	8	15	
6	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	43	37	4	7	14	6	3	6	3
7	Red Bull MUGEN Team Goh	36.5	35.5	-	6	2.5	1	1	20	6
8	B-Max Racing Team	29.5	29.5	-	-	5.5	8	11	5	
∴										
12	ThreeBond Drago CORSE	0	0	0	0	0	0	-	-	0

